

# お米ができるまでに密着！ スマート農機のチカラ

神崎東部で行われている米作りにスマート農機がどのように活用されているのか、1年間の流れに沿ってご紹介します。（各項目の番号は下記のスマート農機をご覧ください。）

## 2月 ・田起こし ①

乾いた田んぼを深く耕して土を細かくし、米の収量を上げることができます。

## 3月 ・種まき ①

### ・代掻き（しろかき）

水を入れた田んぼをトラクタでかき混ぜて平らにし、田植えしやすい田んぼにします。

## 4月 ・田植え ②

### ・浅水管理

田植え後、稲を寒さから守るため、田んぼに水を入れます。神崎東部では「遠隔水管理システム」を導入し、遠隔操作による水位監視、給水管理を行っています。スマホでいつでも水管理が可能に！

## 7月 ・薬剤・肥料散布 ③

## 8月 ・稲刈り ④ ⑤

### ・籾すり

収穫した籾から殻を取り除いて米にし、砕けた米や、小さい米を選別して取り除いて品質の良い米を選んで袋詰めにします。

今回の実証事業で導入したコンバインは、収穫しながら食味・収量を測定し、5mピッチのメッシュマップデータを作成することができます。昨年取得したメッシュマップデータを元に今年の施肥設計を行い、直線キープ田植機に装着した可変施肥システムにデータを反映させることで、同一水田内の収量が少なかった箇所を自動で多めに施肥を行い、収穫の平準化につながりました。

## 活気溢れる

## 未来の農業像

スマート農機の導入により、経験が浅い者が作業を行っても、熟練した作業員と同じくらいの効率で作業を実施することが可能です。スマート農機を通じて、若い世代に農業が「魅力ある職業」であると感じてもらえるきっかけとなることと思います。神崎町の未来の農業に夢と希望の種を蒔く、神崎東部の挑戦は続きます。

## 農事組合法人 神崎東部

平成4年から11年に実施された大区画ほ場整備事業を契機に、平成14年に「神崎東部営農組合」を発足。平成24年に法人化し「農事組合法人 神崎東部」となる。水稲の省略化技術に早くから取り組み、平成26年の「食味・収量コンバイン」導入を機に、営農管理システム（KSAS）を取り入れたほ場管理を行なう。平成31年から国のスマート農業実証プロジェクトの実証試験に取り組んでいる。



### 汎用ロボットコンバイン

人が乗った状態で自動運転により、収穫作業を行います。農業経験が浅くても、自動運転で安心！麦や大豆、そばの収穫にも大活躍です。



### 【食味・収量

### メッシュマップコンバイン】

収穫しながら5m幅で収量、水分値、タンパク値をセンサで測定し、データを生産へフィードバック可能。



### 【農業用ドローン】

農薬・肥料の空中散布が可能になり、適正時期に散布することで品質向上・経費削減につながります。